

# 博士請求論文審査要旨

情報セキュリティ大学院大学  
情報セキュリティ研究科

論文題目 : I T ガバナンスモデルの研究  
— 金融機関の事例を中心とした分析 —

申請者 : 神橋 基博

審査委員会 : 主査 教授 後藤 厚宏  
副査 教授 湯浅 壘道  
副査 教授 藤本 正代  
副査 客員教授 原田 要之助

## I. 論文内容の要旨

本論文では、金融機関をとりまく環境の変化、特に、IT による新しいリスクの出現に向けて、経営者が企業組織の IT ガバナンスを向上させ、IT を使いこなせるようになるにはどうすればよいかを明らかにすることを目的としている。本論文では、IT ガバナンスに関する理論を体系化することを試みる。まず、IT ガバナンスに関する文献より、IT ガバナンスという概念の生成過程と定義の変遷を詳細に検討し、多様な IT ガバナンスの定義を統合的に説明する概念モデルを構築する。そして、構築した概念モデルに基づき、組織および社会にとっての IT ガバナンスの位置づけを明確にし、企業組織にとって有効な向上策を導き出す。そのために、本論文では、IT ガバナンスに関する以下の3つのモデルをたてて、その原理を明らかにしている。

本論文は、“I T ガバナンスモデルの研究 — 金融機関の事例を中心とした分析 —”と題し、6章と付録からなる。

第1章では、本研究の背景と意義について述べている。

第2章および第3章では、IT ガバナンスに関するさまざまな定義を統合するために、関連する国内外の文献、ガイドラインの収集から IT ガバナンスという概念の生成過程を明らかにすると共に IT ガバナンスの定義を検討し、それらを参考としながら IT ガバナンスの概念モデルを構築している。IT ガバナンスの定義は、複数の概念の組合せによって構成されていると分析した上で、IT ガバナンスの定義を構成する概念は「メカニズム」、「能力」、「規律」、「行動」、「責任」に関する5つのグループに分類されるという仮説をたて、ガイドラインの分析によって検証している。

第4章では、IT ガバナンスの概念モデルをもとに、組織における IT ガバナンスの組織モデルを検討している。IT ガバナンスが複数の概念の組合せによって構成されること、IT ガバナンスを構成する概念は背景の異なる5つのグループに分類され、それぞれに異なる作動原理を有していることを明らかとして、さらに、それらの作動原理を統合する組織モデルの一つに遠山暁氏による「遠山モデル」があることを挙げる。この遠山モデルを、サイバネティクスに端を発する人体と情報系の相似性に係る議論に関する最新の知見とリスク社会に関する社会システム理論を参考にして拡張し、IT ガバナンスの組織モデルを構築・提案している。この組織モデルの議論を通して、情報系が IT によって高速化、

大容量化されることで、企業組織全体の効率性を改善すること。情報系に IT を導入することが IT ガバナンスの必要性を生み、複雑化した企業組織において、組織目的の達成と円滑な組織運営を図るには IT ガバナンスは不可欠な存在となることを論じている。

第 5 章では、IT ガバナンスの組織モデルをもとに、社会における IT ガバナンスの効果に関する IT ガバナンスの社会モデルを提示し、組織および社会における IT ガバナンスの効果を明らかにしている。組織による自己表現は、他の組織に理解できる形式でなければならないこと、IT ガバナンスに関するガイドラインは組織間で自己表現に関する共通認識を得るための表現形式となること、また、自己表現を安全かつ円滑に実施する場として関連事業者間の緩やかな結節・連携の場としての「業界」があり、業界は自己表現による信頼獲得の場であるだけでなく、そこへの参画を通じて他社の自己表現を得ることで自社の IT リテラシー向上にも貢献すると論じている。

最後に第 6 章では、これまでの議論をまとめ、金融機関の経営者への提言として、企業組織にとって IT ガバナンスは自らの組織を掌握し、外部からの信用を獲得するために必要であること、経営者は、IT ガバナンス向上のために業界を活用すべきであることを論じている。

## II. 論文審査結果の要旨

IT ガバナンスに関する理論を体系化するため、次の 3 つのモデルを構築している。

- ① IT ガバナンスの概念モデル 定義に関するモデル
- ② IT ガバナンスの組織モデル 組織内の役割に関するモデル
- ③ IT ガバナンスの社会モデル 社会における効果に関するモデル

これらのモデルの構築は、幅広い関連領域の分析に基づいており、構築の過程は、ジャーナル論文、国際会議等の発表を通して、十分に議論されている。

本論文は、IT ガバナンスの概念を整理し、経営学、社会学、経済学等の広く周知される理論に対応付けたことによって、IT ガバナンスに関する客観的な議論を可能にしたものであり、情報学への貢献は大きい。他方でこれらのモデルの波及効果や今後の社会の変化に伴うモデル自体の変容可能性については議論の余地もあるが、本論文の意義を損なうものではない。

よって、本論文は、博士（情報学）の論文として合格と認められる。

## III. 審査経過

本審査委員会は、2020 年 1 月 20 日に口述試問を行い、その後、2 月 18 日に公聴会と最終試験審査を行った。審査に当たっては、博士学位のディプロマ・ポリシーに基づいて総合的に評価し、申請者が学位取得にふさわしい知見を持つものと判断した。